

地球温暖化は、小氷河期からの回復過程である可能性もあり、科学的論争が十分になされておらず排出権取引など日本の進路を誤らせてはならない。

二酸化炭素主原因の根拠となっている地球シミュレーションのモデルは人間が理解している自然であり、入力のパラメーターのチューニングが多用され、現象理解にも不確定要素が多数残され、決して完成されたものではない。

更に、将来予測の前提となっている石油等の消費拡大は、石油ピーク等の資源制約から、右肩上がりの資源消費拡大はあり得ないと我々は信じる。

本質を見極め、直面する資源制約、食料確保への対応を優先すべきである。

関連書籍

赤祖父俊一アラスカ大学名誉教授

6月末発売:「正しく知る地球温暖化」誠文堂新光社